

令和6年度 小・中学校における環境教育の取組み

特別活動（給食委員会）

テーマ【 給食委員会と SDGs 】

和泉市立 石尾中学校

《学習のねらい》

- ・本校の給食の残量から、食べ物を残すことの影響や問題を考える。
 - ・養蜂園と珈琲店を訪問し、「はちみつ」と「コーヒー」を通して、SDGs についての理解を深め、「はちみつと珈琲」を使用した「SDGs 給食」を提供して、学校全体へ啓発する。
- その後、校区の小学校でも同じ献立を実施してもらい、中学生が訪問して小学生に説明しながら交流給食を実施することで、SDGs を自分事として考えていけるようにする。

《学習の流れ》

実施時期 R6 年 6 月 ～ R7 年 2 月

- ① 養蜂園（6 月）と珈琲店（7 月）を訪問し、「みつばちと SDGs」「コーヒーから見える世界」についての講話を、SDGs の観点をもって聞く。
- ② 自分の考えをレポートにまとめ、ロイロノートで提出し、動画やポスターを作成する。
- ③ 9 月 25 日の SDGs の日に、朝の HR で各クラスの給食委員による動画の内容説明を聞いた後、視聴。同日に、「はちみつと珈琲」を使用した SDGs 給食を実施。
- ④ 校区の小学校二校でも同じ献立を実施してもらい、本校給食委員が訪問して小学生に説明しながら交流給食を実施する。

《指導のポイント》

- 生徒たちが主体的に取り組み、自分のこととして考えられるように工夫する。
- 様々な立場の方々と交流する。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

インターネットによる調べ学習、ロイロノートでのレポート提出、養蜂園 経営者、珈琲店 店長

《成果》

- ・夏休みの意見体験作文に、平岡珈琲店を訪問した体験を書いた委員会の生徒が多数いた。
- ・生徒達も、訪問した内容を家族に伝え、各家庭でも話題になっていた。保護者の方々も興味をもってくださり、給食委員会の活動に協力的である。
- ・小学校を訪問し、小学生に説明することで、中学生自身が SDGs の考え方、食べ残しによる影響等を再認識することができた。小学生も真剣に受け止めていた。

